

委員 長 報 告 書

文教厚生委員会は、令和2年2月5日（水）埼玉県志木市においていろは遊学館複合施設について、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

記

志 木 市	市制施行	昭和 45 年 10 月 26 日
	人 口	76,474 人
	世 帯 数	35,050 世帯
		(令和2年1月1日現在)
	面 積	9.05 k m ²

志木市は、埼玉県南西部に位置し、中心を流れる新河岸川と柳瀬川、そして東を流れる荒川と、3本の川が流れており、歴史的には新河岸川の舟運で商業都市として発展、その後、都心まで20分という好条件から人口も急増し住宅都市としても発展をしてきた。

全国に先駆け、平成14年より市独自に小学校低学年の少人数学級を導入するなど、進んだ教育施策をとっており、平成16年度には内閣府経済社会総合研究所が全国自治体を対象に実施した「生活者の視点による地域活力・活性化に関するアンケート調査」において、「目標とする自治体」の全国第4位となった。

視察事項

【いろは遊学館複合施設について】

1. 学社融合施設の発案

(1) 既存建物の老朽化、耐震性の問題の解消

①旧志木小学校校舎（建築：昭和29年、一部増築：昭和40年）

現在の志木小学校南校舎（建築：昭和52年）

②旧志木公民館（建築：昭和40年）

③旧志木図書館（建築：昭和42年、旧消防署を昭和53年に転用）

(2) 学校の特別教室の有効活用により、市民の生涯教育をより積極的・効率的に推進

※小学校にも、休館日には公民館・図書館を寡占できるというメリットあり。

- (3) 教育長の「これからの学校教育は、地域の協力のもとに行い、地域で子どもたちを守り育てる」「子どもの安全性も複合施設となれば、大人の目が多くなり小学校単独よりも高まる」という強い思い

2. 施設規模等

構 造 : 鉄筋コンクリート造・鉄骨コンクリート造・鉄骨造

階 数 : 地下二階 地上四階

延床面積 : 13,346 m²

(新築本体 11,138 m²、既存南校舎 1,907 m² 給食室他 301 m²)

工事期間 : 平成 13、14 年度 (新築工事)

平成 15 年 4 月 施設オープン

費 用

○支出額

総工事費 3,261,354 千円

(設計、いろは遊学館新築工事、既存南校舎大規模改造工事、外構工事)

○歳入額

国庫支出金 524,482 千円

県費補助金 49,400 千円

地方債 1,786,000 千円

一般財源 901,472 千円

3. 財政効果

人件費の削減 (図書館の職員減による効果) 36,800 千円 (年間)

旧公民館・図書館の跡地を駐車場として活用 7,000 千円 (年間)

4. 事業経過

- 平成 9 年 5 月 庁内プロジェクトチームの設置 (15 回開催)
教育委員会、小学校長、財政、企画など 12 人で構成
- 平成 11 年 1 月 市民検討委員会の設置 (12 回開催)
公募市民、学校・社会教育関係者など 17 人で構成
- 平成 11 年 7 月 プロポーザルによる基本設計事業者の選定
- 平成 13 年 5 月 新築工事着工
- 平成 14 年 3 月 南校舎工事着工
- 平成 15 年 1 月 志木小学校 新校舎で授業開始
- 平成 15 年 4 月 いろは遊学館、いろは遊学図書館開館

5. 学社融合施設の課題と対応

(1) 不審者から子ども達を守る

- ① 入館証の着用・・・市民の自発的なアイデア
- ② 常駐警備員の配置
- ③ 防犯カメラの設置、ガラス張りの建物
- ④ 全ての教員・職員がPHSを常時携帯

(2) 多くの市民や複合施設の関係職員を含めた、多くの大人の目があることで、学校施設単独よりも安全性が高まっている

(3) 地域の防災拠点としての機能

地下に防災倉庫を備え、災害対策本部機能を持ち、地域のコミュニティ形成に貢献

6. 学社複合施設としての特色・効果

(1) 志木小学校

社会に「開かれた学校」となり、各施設の事業や行事とのクロスカリキュラムによる交流教育や、日常的に地域の人と触れ合うことによる社会性の形成など、「地域ぐるみ」で子ども達を共に育てていこうという視点に立った学校教育が推進され「学校教育の社会化」が展開されている。

- ① 普通教室棟はオープンスタイルで廊下側の間仕切りは設置しない
- ② 教室風景を常時公開し、公教育の公開性に対応
- ③ いろは遊学図書館やいろは遊学館のコンピューターコーナーを利用
- ④ 授業開始、終了のチャイムの廃止

(2) いろは遊学館

保護者や卒業生が気軽に立ち寄ることができ、生涯学習の連続性、継続性が図られ、より強固な地域コミュニティが形成されている。また、児童と市民双方の教育の相乗効果を図るため学社融合事業を展開。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① いろはふれあい祭り | 参加者 10,948人 |
| ② いのちを学ぶ人権講座 | 参加者 758人 |
| ③ 音楽講座 | いろは大学と小学校4年生の交流 |
| ④ おもてなし給食 | いろは大学と小学校4年生の交流 |
| ⑤ 親子ファミリーコンサート | |
| ⑥ 合同防災訓練・防犯訓練 | |

7. まとめ

学校校舎や公民館の老朽化対策・耐震化は、本市でも抱えている大きな課題である。

志木市の事例は、上記課題に加え、土地の有効活用の必要性や当時の教育長の強い理念を基に進められたもので、多大な予算が投入されているものの、開館から16年が経過し、財政効果からみると適切な投資であったと考えられる。

また、学社融合施設として特色ある学校教育・生涯学習教育にも取り組んでおり、互いに相乗効果を生み、地域コミュニティの形成にも寄与していることから、適切な運営がなされていることが推測される。

本市においても、今後の学校校舎の耐震化、及びこれからの公民館の在り方を検討していくにあたり、選択支の一つとして学社融合施設を取り入れ、効果的な手法かどうかを判断する必要がある。

以上

なお、詳細については、議会事務局に資料を保管していますので、ご覧ください。